

特色

- ① 哲学者・教育学者木村素衛（きむらもともり）の初めての著作集であり、ここには論文を除き木村の著作のほぼすべてを収録している。
- ② 本著作集の構成は、第1巻・第2巻がフイヒテ研究、ドイツ観念論研究の『フイヒテ』『国民と教養』『独逸観念論の研究』と日記抄『紅い実と青い実』『花と死と運命』、第3巻は美学研究の『表現愛』『美のかたち』、第4巻は教育学のテキスト『形成的自覚』『国民教育の根本問題』と遺稿論文集『教育と人間』、第5巻は木村教育学の集大成『国家に於ける文化と教育』と『日本文化発展のかたちについて』『教育学の根本問題』、第6巻は随筆集『草刈籠』『雪解』と学生時代の日記抄『魂の静かなる時に』である。
- ③ 第6巻巻末には矢野智司（京都大学大学院教育学研究科教授）の解説と略年譜を付している。

第一章 知識学の本質

一七九四年にエーナ大学の招聘に応じた若いフイヒテは、その教壇から初めて彼れの知識学に就て人々に語りかけた。彼れの哲学が知識学と云ふ名前前に於て公衆の前に提出せられた最初の文献であるこの講演は、『知識学又は所謂哲学の概念に就て』(Über den Begriff der Wissenschaftslehre oder der sogenannten Philosophie)と題せられてゐる。ところで吾々はこの論述の内に、この學問が不可避的に當面する循環に就て彼れ自身が、それを看過し或は隠蔽することなく、却つて明瞭に指摘してゐるのを見出すことが出来る。知識学とは一體如何なる本質を有つた學問であるか、私はここにこの問ひを提出し、そしてこれに對してこの循環の考案を通して解答を試みようと思ふ。蓋し一つの學問はそれが含むアリアの考案を通してよりよくその本質を屢々明瞭に露呈するからである。殊に吾々の場合に於ては、この學問の創唱者自身がこのやうに自己の體系に不可避の循環が含まれることに對して、「恥づべきでない」(nicht schamhaft)と表明してゐる。



（フイヒテ）より

各巻主要目次

第1巻 フイヒテ／国民と教養

『フイヒテ』序 第一章 知識学の本質 第二章 第一根本命題の検討 第三章 第二根本命題の検討 第四章 第三根本命題の検討 第五章 理論的自我と実践的自我と絶対的自我との体系的連関 第六章 カント哲学に対するフイヒテ哲学の問題史的連関
『国民と教養』一 問題の提出 二 人類文化と教養 カントに於ける文化の概念／フイヒテに於ける文化と教養 三 国民文化と教養 後期に於けるフイヒテの愛の思想／国民と教養 四 国民文化と世界文化
『紅い実と青い実』(日記抄)
『花と死と運命』(日記抄)



第2巻 独逸観念論の研究

『独逸観念論の研究』自己同一 カントの NOUNENA と先験的自由とに就て カントに於ける具体的普遍カントに於ける der transszendentale Gegenstand „affiziert werden“ とに就て 含蓄から顕現へ 理論と実践 フイヒテの理論哲学 カントの回顧／範疇の演繹と範疇の意味／構想力の演繹／表象の演繹

第3巻 表現愛／美のかたち

『表現愛』 表現愛 第一部 身体と精神／第二部 表現愛の構造 ミケルアンジェロの回心 一打の鑿 意志と行為
『美のかたち』 形式と理想 形成 映画の視覚 観ることと作ること
ヘーゲルに於ける芸術美のイデー



第4巻 形成的自覚／国民教育の根本問題

『形成的自覚』 第一部 文化の本質と教育の本質／国民教育の根本問題／哲学すること 第二部 教育と歴史性／教師と教養の問題／アマチュアについて／古典研究の意義／知育と徳育とについて／フイヒテの回想 第三部 理性の実験／科学と構想力／科学と表現
『国民教育の根本問題』
『教育と人間』(遺稿集) 教育の本質について 教育哲学に対する基礎と展望

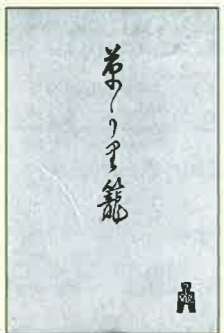
第5巻 国家に於ける文化と教育

『国家に於ける文化と教育』 第一章 人類の文化 自然と文化／カントの理論哲学と主体の独立性／批判哲学に於ける文化の概念／人類文化の立場 第二章 人類文化の立場に於ける教育・教育学の分析／教育学の成立の立場／自覚的個体／人類文化の立場に於ける教育 第三章 文化と教育、その真実の意味と連関 表現的外／表現的内／歴史的生命／技術／教授法の根本問題 第四章 文化の根底と教育の愛 文化の根底に関する究極の問題／文化と宗教 表現愛／教育愛 第五章 国民文化と国民教育 主体としての世界的国民／国民文化の世界的性格／文化の有極的交流性と道的世界史的性格／国民文化と国家／国家哲学思想の歴史的發展／個人と国家 哲学と政治と教育
『日本文化発展のかたちについて』
『教育学の根本問題』(講義録) 第一章 序論 第二章 教育に関する学問的考察の立場 第三章 人類文化の立場に於ける教育 第四章 表現愛と教育愛 第五章 教育の本質と教授法の根本問題 第六章 国民教育の根本の立場 附録 教育愛



第6巻 草刈籠／雪解

『草刈籠』(随筆集) 秋と夕顔／殺生／さくら蓼／しでざくら／花に寄する心／月の虹／芸術の思出／一つの小さいいのちの閑歴／吉野太夫の墓／木曾の谷／音戸の瀬戸／藤の花の散る頃／歌舞伎断想／どくだみの芽／アリヨシアの別れの言葉／窓／ほんたん／びんばふ蔓／へくそかづらのために／山獄美について／京都の自然／広島島の春
『雪解』(随筆集) 新雪／成吉思汗鍋／支那の王城建築／建築について／北の海／阿波の鳴門／たうもろこし／秋の気配／西湖／日本人の美的感覺／縫針／二尊院／槍／幼な児の瞳／忠言を食へた話／内輪と彼／看板／郷里／芸術の純粋性と実践性／新劇の問題
『魂の静かなる時に』(日記抄)
付解説・略年譜(矢野智司)



略年譜

- 明治二八年(一八九五) 石川県江沼郡橋立村(現加賀市橋立町)に生れる。
- 明治四〇年(一九〇七) 父は北海道小樽に就職し、家族は京都東山へ移る。
- 京都市立第一高等小学校三年に転入。
- 京都府立第一中学校に入学。
- 助産院で一年の休学。
- 大正三年(一九一四) 第一中学校を卒業。パラチフスにかかり高等学校受験を一年延期する。
- 大正四年(一九一五) 第三高等学校に入学。
- 助産院内務で第三高等学校を退学。以後三年間の閑病生活を過ごす。
- 大正五年(一九一六) 京都府立第一高等小学校に入学。
- 京都真言宗大学講師となる。
- 京都帝国大学文学部哲学科道科に入学。
- 京都高等工藝学校講師となる。
- 大正三年(一九一四) 山川京子と結婚。京都高等工藝学校嘱託を辞し、大谷大学講師となる。
- 昭和元年(一九一六) カント著『一般歴史考其他』誤刊行。
- 昭和二年(一九一七) 第三高等学校講師となる。
- 昭和四年(一九一九) 大谷大学及び第三高等学校講師を辞し、広島文理科大学講師に任じられる。
- 昭和五年(一九二〇) 広島文理科大学助教授兼広島高等師範学校教授となる。
- 昭和六年(一九二二) フイヒテ著『全知識学の基礎其他』誤刊行。
- 昭和八年(一九二三) 小西重直の後任として京都帝国大学助教授に任じられ、文学部勤務を命じられる。
- 昭和四年(一九一九) このころより呼吸器疾患のため二年間の休講。
- 『フイヒテ』刊行。
- 論文『身体と精神』を西田幾多郎から絶賛される。
- 『表現愛』刊行。人文科学研究所に補せられる。
- 教育学教授法講座担任を命じられる。『国民と教養』刊行。
- 『実践的存在の基礎構造』教育哲学の考察に向けられたるフイヒテ哲学の一つの研究として、京都帝国大学より文学博士の学位を受領。京都帝国大学より文学博士の学位を受領。京都帝国大学教授に任じられ、文学部勤務を命じられる。教育学教授法講座担任。『独逸観念論の研究』刊行。
- 『美のかたち』国民教育の根本問題、『形成的自覚』刊行。
- 昭和七年(一九四二) 『国民教育の根本問題』、『形成的自覚』刊行。随筆集『草刈籠』刊行。心理学講座担任を命じられる。満州国および中華民国出張。
- 昭和八年(一九四三) 京都帝国大学評議員となる。人文科学研究所研究担当。日本主義に立つ『読書人』の京都学派批判の特集号において、京都学派の哲学者の一人として木村の国民教育学が批判される。
- 心理学講座担任を辞す。
- 昭和九年(一九四四) 西田幾多郎の訃報に接し、高坂正顯とともに鎌倉に向かう。京都帝国大学学生主事に任じられ、初代の学生部長に補せられる。『日本文化発展のかたちについて』刊行。
- 昭和二年(一九四六) アメリカ教育使節団に対応のための教育委員会委員に任命される。京都帝国大学評議員、学生部長を辞任。風邪を押して長野県各地にて講演中、二月二日夜、上田市において急逝。享年五〇歳。一月九日、国家に於ける文化と教育』刊行。
- 随筆集『雪解』講義録『教育学の根本問題』刊行。
- 遺稿集『教育と人間』刊行。
- 昭和三年(一九四七) 『略年譜は、張つき、父・木村素衛からの贈りもの、小林基樹・解説『表現愛』などを参考に作成した』
- 昭和三年(一九四八)

『草刈籠』より

秋と夕顔

暖かつた秋の名残を辿り歩こうに、脚先にはいつて急に寒風が立つた。それにあふられて、小鳥が一時に飛び立つやうに、近所の緑の林が群れをなして揺られて行った。葉の赤松林の内から暖かさを放つたソランツの粗黄色の葉が一枚一枚と落ちて空を舞うた。小鳥のほかに葉の落ちる音は静寂になつて来た。あわただしい変化である。音物から眼を上げて、悲しき子孫の枝々に明暗ささやかな調子を奏し出している冬の陽を、書齋のガラス窓越しに眺めながら、戻り私はさう思った。

私自身も併しあわだちかつた。何といふこともなくこの秋は無暗に身せはし、

木村素衛著作集 (全6巻)

■定価 本体110,000円+税

2014年10月刊行

■解説・略年譜 矢野智司 (京都大学教授)

■体裁 A5判、上製、個函・セット函入、総約3,390頁

ISBN978-4-284-10427-2

■収録内容

- | | | | |
|-----|--|-----|--|
| 第1巻 | フィヒテ (弘文堂書房 1937年)
国民と教養 (弘文堂書房 1939年)
紅い実と青い実 (弘文堂 1949年)
花と死と運命 (弘文堂 1948年) | 第5巻 | 国民教育の根本問題 (目黒書店 1941年)
教育と人間 (弘文堂 1948年)
国家に於ける文化と教育 (岩波書店 1946年)
日本文化発展のかたちについて (生活社 1945年)
教育学の根本問題 (黎明書房 1947年) |
| 第2巻 | 独逸観念論の研究 (弘文堂書房 1940年) | 第6巻 | 草刈籠 (弘文堂書房 1942年)
雪解 (能楽書林 1947年)
魂の静かなる時に (弘文堂 1950年) |
| 第3巻 | 表現愛 (岩波書店 1939年)
美のかたち (岩波書店 1941年) | | |
| 第4巻 | 形成的自覚 (弘文堂書房 1941年) | | |

おすすめ先 大学・公共図書館 / 哲学・教育(史)の研究者・学生 / 近現代史研究者など

〈学術著作集ライブラリー〉続刊予定 (順不同)

春山作樹、小泉郁子、小西重直、青木誠四郎、三田谷啓、奥むめお、蠟山政道ほか

好評既刊

長田新著作集 全7巻

■定価 本体94,000円+税
ISBN978-4-284-10337-4

■体裁 A5判、上製、総約3,000頁
■監修 長田五郎 (横浜市立大学名誉教授)
■解説 鈴木由美子 (広島大学教授)
■収録内容

- 第1巻 現代教育哲学の根本問題
第2巻 教育活動の本質
第3巻 最近の教育哲学
第4巻 教育哲学—教育学はどこへいく—
第5巻 ベスタロッチー—夫教育学
第6巻 ベスタロッチー—伝 上巻
第7巻 ベスタロッチー—伝 下巻
解説 / 小伝・略年譜



谷本富著作集 全6巻

■定価 本体95,000円+税
ISBN978-4-284-10345-9

■体裁 A5判、上製、総約3,100頁
■解説 竹中暉雄 (桃山学院大学教授)
■収録内容

- 第1巻 科学的教育学講義
第2巻 将来の教育学
第3巻 系統的新教育学綱要
第4巻 潔き立派な最期
道徳革新論 (大学講義全集 第一集)
第5巻 最新教育学大全 上巻
第6巻 最新教育学大全 下巻
解説・略年譜



高坂正顕著作集 全8巻

■定価 本体94,000円+税
ISBN978-4-284-10353-4

■体裁 A5判、上製、総約3,300頁
■底本 『高坂正顕著作集』全8巻 (昭和39~45年 理想社)
■収録内容

- | | |
|---------------|-----------|
| 第1巻 歴史哲学 | 第5巻 実存哲学 |
| 第2巻 カント研究 (一) | 第6巻 教育哲学 |
| 第3巻 カント研究 (二) | 第7巻 明治思想史 |
| 第4巻 現代哲学 | 第8巻 西田哲学 |



天野貞祐全集 全9巻

■定価 本体126,000円+税
ISBN978-4-8205-2474-8

■体裁 A5判、上製、総約3,980頁
■底本 『天野貞祐全集』全9巻 (昭和45年 栗田出版会)
■収録内容

- | | |
|--------------|---------------|
| 第1巻 道理の感覚 | 第6巻 道徳教育 |
| 第2巻 学生に与うる書 | 第7巻 カント教育 |
| 第3巻 信念と実践 | 第8巻 純粹理性批判(上) |
| 第4巻 今日に生きる倫理 | 第9巻 純粹理性批判(下) |
| 第5巻 教育論 | |



〈発行〉

学術出版会

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL 03-3947-9153 FAX 03-3947-9157
http://www.gaku-jutsu.co.jp
E-mail: info@gaku-jutsu.co.jp

〈発売〉

日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-8-2
TEL 03-3947-9387 FAX 03-3947-1774
http://www.nihontoshu.co.jp

取扱書店